

2024 年度

修 士 学 位 論 文

実 践 研 究

介護予防の視点から在日中国人向けのデイサービス
に関する質的研究
(概 要)

指導教員

高井 逸史先生

大阪経済大学大学院

人間科学研究科 人間共生専攻

張 倩

1. 研究背景

法務省入国管理局の統計により、在日外国人の人数が年々増加して、2023年6月の外国人の数は293万9,051人である。その中、一番多いのは中国人で、外国人の25.1%を占めている。

また、日本における在留外国人の高齢化もここ数年で急速に進んでいる。法務省の統計によると、2022年12月末の時点で、日本に在留する65歳以上の外国人の人数20,9033人（在日外国人の7.83%をしめている）であり、そのうち75歳以上の人が80169人となっている在日外国人の3%をしめている。3年前（2019年12月）に比べて3万人増えた。高齢者の割合も6.0%から7.83%に上昇した。日本人の高齢者の割合に比べて低いとはいえ、上昇率は日本人より高くなっている。在日外国人の中で最も高齢者の割合が高いのは韓国人（29.42%）が、中国人など在外日本人が高齢期もう迎えている。

今後在日外国人高齢者の介護の必要が高まることが予想される。第二次世界大戦前・大戦中に中国に居住し、終戦直後の混乱の中で中国人の養子や妻として中国に残って生活し、日中の国交が回復した1972年以降に日本への永住帰国を果たした人々（いわゆる中国残留日本人孤児・婦人等およびその家族）を「中国帰国者」と呼んでいる。

厚生労働省（2023）によると、令和5年4月30日時点の永住帰国者のうち、残留孤児は2,557人（家族を含めた総数9,381人）、残留婦人等は4,167人（家族を含めた総数11,530人）であった。平成27年度に帰国者を対象として実施した調査である「平成27年度中国帰国者生活実態調査」⁵⁾によると、帰国者の平均年齢は76歳、70歳以上が93.4%（同50.4%）となっており、高齢化が進んでいる。年齢別の割合では、70歳代が71.3%、80歳代が17.6%、90歳以上が4.5%となっている。現在、帰国者1世はすでに高齢期に入っている。高齢化と介護の問題が大きい。

1980年代から、日本政府は、中国帰国者の生活の安定を目的として、いくつかの支援政策を実施してきた。1994年に「中国残留邦人等の円滑な帰国の促進及び永住帰国後の自立の支援に関する法律」が制定され、初めて「国等の責務」が明らかにされた。これまでの親族身元引受人中心の援護政策から「援護の社会化」へという大きな転換を向かえることとなった。2007年には従来の支援策を改善するため、「中国残留邦人等の円滑な帰国の促進並びに永住帰国した中国残留邦人等及び特定配偶者の自立の支援に関する法律」が成立し、2008年に施行した。日本政府は、中国帰国者の生活、住宅、医療、介護など支援を実施する。

本研究では、65 歳以上の中国帰国者と在日中国人高齢者を「在日中国人高齢者」。(以下、在日中国人高齢者) 在日中国人高齢者にとって、母国から日本への移住は、大きな環境変化をもたらす。日本の文化背景、生活習慣、社会システムは母国と異なるため、高齢化が進んでいる、介護とデイサービスなどに対するニーズも日本の高齢者とは異なるが予想される。これらの背景から、在日中国人高齢者の介護と施設利用状況を研究することは重要である。在日中国人高齢者が日本社会に適応し、介護予防など健康意識を高めるし、もっとより良い介護サービスを受けるためにまずは現状を把握する必要がある。

2. 介護予防

本研究では、65 歳以上の中国帰国者と在日中国人高齢者を「在日中国人高齢者」。(以下、在日中国人高齢者) 在日中国人高齢者にとって、母国から日本への移住は、大きな環境変化をもたらす。日本の文化背景、生活習慣、社会システムは母国と異なるため、高齢化が進んでいる、介護とデイサービスなどに対するニーズも日本の高齢者とは異なるが予想される。これらの背景から、在日中国人高齢者の介護と施設利用状況を研究することは重要である。在日中国人高齢者が日本社会に適応し、介護予防など健康意識を高めるし、もっとより良い介護サービスを受けるためにまずは現状を把握する必要がある。

1990 年代に入り高齢者保健福祉の基盤整備が強化されたが、我が国における急速な高齢化の進展に伴い、寝たきりの高齢者などが急速に増加し、介護ニーズが急速に増大することが見込まれる一方で、核家族化の進展等による家族の介護機能が低下し、高齢期の介護が家族にとって身体的、精神的に大きな負担となってきた。

3. 在日中国人向けのデイサービス

本研究の目的は以下の 3 点である。1) デイサービスを利用している在日中国人高齢者を対象に日常生活のリズムを調査し、健康への意識及びデイサービスのあり方を把握する。2) デイサービスを利用している在日中国人高齢者の家族のあり方を明らかにする。3) 上記の健康への意識、老後のあり方と家族のあり方を把握し、在日中国人高齢者にとって介護予防を展開するための基礎的要件を得る。

本研究の対象者は、大阪市東淀川区柴島 3 丁目に夕陽紅デイサービス柴島という施設をお利用している在日中国人高齢者である。研究への参加を希望された方は、合計 12 名（男性 3 名、女性 8 名）で、研究に関する同意が得られている。

調査方法は半構造化インタビュー調査、分析方法はインタビュアーで得られたデータを逐語録に書き起こし、Steps for Coding and Theorization（以下、SCAT）27）により質的分析を行った。SCATの手法は、逐語録をセグメント化し、〈1〉テキスト中の注目すべき語句を抽出し、〈2〉テキスト中の語句を言い換え、〈3〉それを説明するためのテキスト外の概念を作成し、そして〈4〉これまでの文脈を考慮して意味コードを生成する。それらに基づいてストーリーラインと理論記述を作成し、データに記述されている出来事潜在する意味や意義を主に〈4〉に記述したテーマを紡ぎ合わせて書き表し、理論記述を行った。

研究結果としては、得られた意味コードは49で、小カテゴリーは22、中カテゴリーは8、大カテゴリーは3に分類された。在日中国人高齢者は、【中国人向けのデイサービスのあり方】、【家族の絆】、【寂しさ】、【健康への意識】という4つの構成概念からなることが明らかになった。